

高 校 Ⅲ 年

2025

Syllabus

職員室用

高田高等学校

学 科 名			普 通 科												
教 科	科 目	標準 単位数	I 類 進 学						II 類						
			I	II		III			I		II		III		
				文	理	文1	文2	理	進学	特別選抜	文・特文	理・特理	文	特文	理・特理
国 語	現代の国語	2	2						2	2					
	言語文化	2	2						2	2					
	論理国語	4		2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
	文学国語	4		2		2	2								
	国語表現	4													
	古典探究	4		3	3	2	2	2			3	3	3	3	3
	表現基礎 (学)	2~3				2	2						3 ^B		
	文学基礎 (学)	1									1		1	1	
地理歴史	地理総合	2		2	2						2	2			
	地理探究	3													3
	歴史総合	2	2						2	2					
	日本史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
	世界史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
公 民	公共	2	2				2		2	2	2				
	倫理	2													
	政治・経済	2				2		2					3	3	
数 学	数学Ⅰ	3	3						3	3					
	数学Ⅱ	4	1	4	4	3		4 ^T	1	1	3	3	3 ^A	3	
	数学Ⅲ	3				3		4 ^S			1				4
	数学A	2	2						3	3					
	数学B	2			2	3		1 ^T			2	2	2 ^A	2	1
	数学C	2			1			1 ^T 2 ^S			1	1	1 ^A	1	2
	数学基礎演習 (学)	2											2 ^B		
理 科	科学と人間生活	2				2									
	物理基礎	2	2						2	2					
	物理	4			3			4			4				4
	化学基礎	2		2	2	1		2			2	2	2 ^A	2	4
	化学	4			2			5			3				4
	生物基礎	2	2	1	3	1	2		2	2	1	4	1	1	4
	生物	4			3			4			4				4
	地学基礎	2													
保健体育	体 育	7~8	3	3	2	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2
	保 健	2	1	1	1				1	1	1	1			
芸 術	音 楽Ⅰ	2	2	1					2	2					
	音 楽Ⅱ	2					2								
	音 楽Ⅲ	2													
	美 術Ⅰ	2	2	1					2	2					
	美 術Ⅱ	2		2	1		2			2	2				
	美 術Ⅲ	2						2							
	工 芸Ⅰ	2													
	工 芸Ⅱ	2													
	工 芸Ⅲ	2													
	書 道Ⅰ	2	2	1					2	2					
	書 道Ⅱ	2					2								
	書 道Ⅲ	2													
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3	4					
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4						4	4	3 ^B		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4					4	4	4
	論理・表現Ⅰ	2	3						3	3					
	論理・表現Ⅱ	2		3	3						3	3			
	論理・表現Ⅲ	2				3	3	2					3	3	2
家 庭	家庭基礎	2	2						2	2					
	家庭総合	4													
情 報	情報Ⅰ	2				2	2	2					2	2	2
	情報Ⅱ	2													
理 数	理数探究基礎	1													
	理数探究	2~5													
宗 教	一般仏教 (学)	2~3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	宗乗・余乗 (学)	(5)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6 ()	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)
科目の単位数の計			34	33	33	33	33	33	35	36	35	35	35	35	35
特別活動 ホームルーム活動		3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計			35	34	34	34	34	34	36	37	36	36	36	36	36

S6単位選択

A8単位選択

T6単位選択

B8単位選択

科目の年間授業計画（シラバス）

[illegible]

科目の年間授業計画

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 進学・特選理系
到達 目標	① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。 ② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。 ③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。						
評価 の観 点・ 評価 規準	【知識・技能】 ・地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。 ・地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ・調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。						
	【思考・判断・表現】 ・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。						
	【評価の方法】 ・年4回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。 ・課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。 ・日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。 ・評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。						
使用 教材	帝国書院「詳説地理探究」 帝国書院「新詳高等地図」 副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2025」						
学期	学習内容				学習のねらい		
1	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業				地理総合で学んだ知識を基に、地球上の地形や気候、生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのかについて、場所や人間と自然の関わりなどに着目して考察する。 地理総合で学んだ内容と自然環境分野で学んだ知識を基に、産業毎の立地や特徴について学びを深め、世界の地域、国々においてどのような産業が盛んであり、どのような課題が生じているのかについて考察する。		

	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	地理総合で学んだ内容や、産業分野で学んだ知識を基に人や物、情報がどのように行き来し、地域や国家がどのように結びついているかについて学ぶ。 地理総合で学んだ内容を基に、国家・都市における人口構成の特徴や、問題点について学ぶ。また、村落や都市の形成に関して、発達の過程や構造に着目することで、それぞれがどのような機能を有しているかを理解し、課題の解決につなげる。
2	第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題 第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 1節 中国 2節 韓国 3節 東南アジア 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 アフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア	地理総合で学んだ内容や自然地理分野で学んだ内容を基に、人類の多様性について考察し、それぞれの民族によって育まれてきた文化についての知識を深める。また、相互理解の不足や歴史的な経緯によって現代においても各地で民族問題や紛争が生じていることを認識する。 第2部では、これまで学んできた系統地理的知識を、地域毎に確認することで、それぞれの地域における自然地理と人文地理を関連付けて理解する。また、我々の生活や日本との関連性についても考察することで、世界で起きている様々な事象が自分自身と繋がっており、人類共通の課題であることを理解する。
学習上の留意点	・地理総合で取り扱った内容は復習にとどめる。 ・基礎的知識の徹底をはかる。 ・各地域世界の特徴を知るとともに、世界における日本の位置を把握させる。 ・講義式の学習形態だけでなく、発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し、生徒自身の授業への積極的参加を求めている。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	5 単位	履修学年	Ⅲ 年 類進学文系
到達 目標	・世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 ・世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていこうとする視点を養う。 ・2年次に3単位、3年次に5単位で教科書の内容を学習する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 ・授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 ・各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 ・歴史的事象について考察し、判断しているか。 ・図表や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 ・授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。						
使用 教材	教科書：『新詳世界史探究』（帝国書院） 副教材：『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）、『新世界史要点ノート標準編』（啓隆社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	3 部 諸地域の交流・再編 2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 3 章 主権国家体制の成立と交易の拡大 4 部 諸地域の結合・変容 1 章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 2 章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 3 章 世界の一体化の進展とアジアの変容			・明清帝国を中心とするアジア諸国と世界各地の結び付きの特徴を理解する。 ・スペインとポルトガルの海外進出がヨーロッパや南北アメリカ大陸にもたらした変化を理解する。 ・モンゴル帝国後の西アジアや南アジアの諸帝国の統治政策を理解する。 ・周辺世界や諸民族、諸宗教との関連を視野に入れてオスマン帝国、ムガル帝国を理解する。			

		・大航海時代によって成立した近代世界史システムを理解するとともに、宗教改革と対抗宗教改革、オランダの覇権と英仏の台頭など17世紀ヨーロッパと、ロシア台頭など国際社会の推移を理解する。 ・アメリカ独立やフランス革命の世界史的意義を理解する。
2	4章 世界の一体化の完成とその影響 5章 世界大戦の時代 6章 戦後の国際秩序と冷戦 5部 地球世界の課題 1章 冷戦の展開と平和の模索 2章 グローバル化する国際経済とその課題 3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	・帝国主義時代の特徴を、様々な側面から把握する。 ・欧米列強による世界秩序形成、植民地化の拡大などを理解する。 ・アヘン戦争から辛亥革命の経緯について、整理して把握する。 ・総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ・ロシア革命の意義や、国際協調の成果と限界について考察する。 ・第二次世界大戦に至る対立状況を認識する。 ・連合国軍の反撃と終戦にいたる経緯について理解する。 ・東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況について理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。 ・冷戦後の世界経済のグローバル化と、発生した諸問題、地域経済圏形成の動きなどについて理解する。
3	演習	
学習上の留意点	・3年次では2年次の続きを学習するため、前年に引き続き地理的要因、思想にも留意しながら世界史の基本的な知識を身につけていく。 ・語句の暗記に終始しないよう、興味・関心を喚起する授業を展開する。 ・小テストを適宜実施し、学習内容の理解徹底に努める。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類 進学文系
到達 目標	幸福、正義、公正など、人間と社会のあり方についての見方、考え方をはたらかせ、現代社会の諸課題の解決に向け、社会に参画する主体として自立し、他者と協働して考察できる資質を身につける。そのために倫理、社会、政治、法、経済、国際関係の諸課題を知り、それに対する主体的な意見をもてるように努める。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができるか。						
	【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを、正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができるか。						
	【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができるか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。						
使用 教材	教科書…公共（第一学習社） 副教材…クローズアップ公共2023						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	2 章 政治的な主体となる私たち 主題 4 政治参加と公正な世論の形成 主題 5 国際社会と国家主権 主題 6 日本の安全保障と防衛 主題 7 国際社会の変化と日本の役割			・民意を政治に反映するために選挙で投票し、政治参加することの重要性を理解させる。 ・国際連合の役割や課題を理解し、国際連合の未来の役割について考察させる。 ・平和主義とその変遷について理解し、世界平和のために果たすべき役割について考察させる。 ・国際社会の現状と課題を理解し、国際社会の中の日本が果たすべき役割について考察させる。			
2	3 章 経済的な主体となる私たち 主題 8 雇用と労働問題 主題 9 社会の変化と職業観 主題 10 市場経済の機能と限界 主題 11 金融のはたらき 主題 12 財政の役割と社会保障 主題 13 経済のグローバル化			・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解させる。 ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、労働者の権利を理解させる。 ・経済をどのように運営し、国民の福祉を向上するための対処方法を考察させる。 ・物価安定のための中央銀行の働きを理解する ・公債を発行する問題点を理解し、持続可能な財政と社会保障制度についてを考察する。 ・国際社会が目指している貿易を理解し、現在の課題を克服する方法を考察する。			
3	ふりかえり学習						
学習 上の 留意 点	一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。 ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。 議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達 目標	関数の極限、微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+複素数平面・式と曲線（数学C）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容				学習のねらい		
1	第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 第2節 関数の極限と連続性 第3章 微分法 第1節 微分と導関数				分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。 片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限値の性質についてまとめる。 $\sin \theta / \theta$ の極限を学習し、絶対値を使った三角関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。 微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。		

	第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用	三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関連する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。 簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。 直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようにする。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。 増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。
2	第4章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用 大学入試に向けた総合演習	不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。 定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考えにより、定積分と面積の関係について理解する。 曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する。 発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。

3	大学入試に向けた総合演習	大学入試に対応できる実力養成
学習上の留意点	授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、Grasp の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ + C（複素数平面・式と曲線）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用			微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。 三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関連する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。 簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。 直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようにする。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。			

	第4節 いろいろな応用 第4章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。 不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。 定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考えにより、定積分と面積の関係について理解する 曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、節末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達 目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ＋C（複素数平面・式と曲線）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用			微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。 三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関連する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。 簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。 直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようにする。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。			

	第4節 いろいろな応用 第4章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。 不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。 定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考えにより、定積分と面積の関係について理解する 曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する。
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立大学2次試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	国公立大学2次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、節末問題や章末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年 Ⅰ 類進学理系
到達 目標	複素数平面、2 次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学 C」（数 C 7 0 7） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学 B+C」 参考書 数研出版「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+複素数平面・式と曲線（数学 C）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第 1 章 複素数平面 第 1 節 複素数平面 第 2 節 平面図形と複素数			数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n - a = 0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。 平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2 点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点 z のまわりの回転移動、2 直線のなす角の複素数による表現、3 点の共線条件、2 直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。			

	第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数と極座標	2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけられるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけられるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。 媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験対策総合演習	大学入試の個別試験に向けた実力養成
学習上の留意点	授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、Grasp の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。 また、大学入学共通テスト対策演習と同時に、Focus Gold 5th Editionを家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ 類進学理系
到達 目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学C」（数C707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容				学習のねらい		
1	第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数				数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n - a = 0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。 平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。		

	第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数と極座標	2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけられるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけられるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。 媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、節末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達 目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学C」（数C707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数			数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n - a = 0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。 平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。			

	第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数と極座標	2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけられるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけられるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。 媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立2次試験および 大学入学共通テスト策総合演習	国公立2次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 演習については、節末問題や章末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	科学と人間生活	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年 類文 2
到達目標	・ 自然の事物・現象に関する観察、実験などを通して、人間と自然とのかかわりについて考察し、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。 ・ 実験・実習などを通して、それらの基本的な方法を習得し、自然を探究する力を養う。 ・ 科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間との関わりについて探究する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 啓林館 科学と人間生活						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第 1 部 生命の科学 第 1 章 ヒトの生命現象 第 3 部 光や熱の科学 第 1 章 光の性質とその利用			・ ヒトの視覚と光、動物の行動と光について学び、生物の活動と光との関係を理解する。 ・ 免疫の仕組みについて学び、ワクチンやアレルギー反応との関係を理解する。 ・ 光の性質と光が日常でどのように利用されているのかを理解する。 ・ 光のスペクトルや赤外線・紫外線、物体の色、偏光などについて理解する。 ・ 紫外線による人体への影響について理解する。			
2	第 1 部 生命の科学 第 2 章 微生物とその利用 第 2 部 物質の科学 第 1 章 材料とその利用 第 2 章 衣料と食品			・ 様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生活について学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。 ・ 発酵食品や抗生物質について理解する。 ・ プラスチックが、それぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。 ・ 衣料、染料、洗剤などについて学び、その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。			
3	4 部 宇宙や地球の科学 第 2 章 自然景観と自然災害			・ 地球の活動と、人間と自然のかかわりを学び、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。			
学習上の留意点	・ 実験観察を多く取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・ 調べ学習を多く取り入れながら、身近な科学技術に関心を持ち、日常生活に活用しようとする態度を養う。 ・ 実験後の報告書などの提出を通して、自らの考えを的確に表現する力を養う。						

科目の年間授業計画（シラバス）

[illegible]

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達 目標	・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。						
評価の 観点 および 基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用 教材	教科書 物理（東京書籍） 副教材 2024 セミナー物理基礎+物理（第一学習社）、スタディノート物理（第一学習社） 進研 WINSTEP 物理（ランズ）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	3 編 電気と磁気 2 章 電流 3 章 電流と磁場 4 章 電磁誘導と電磁波			・電流と直流回路について理解する。 ・磁場について理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴などを理解する。			
2	4 編 原子 1 章 電子と光 2 章 原子と原子核 問題演習			・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものの見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 ・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。			
3	問題演習			・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。			
学習上 の 留意点	・自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習の定着をはかるために、問題集を家庭学習として利用し、配布プリントや定期試験や模試をしっかりと復習する。また大学入試に十分適応できるよう入試問題を取り入れる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ 年 Ⅱ 類 特 理
到達 目標	・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。						
評価の 観点 および 基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用 教材	教科書 物理（東京書籍） 副教材 2024 セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）、スタディノート物理（第一学習社） 進研 WINSTEP 物理（ランズ）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	3 編 電気と磁気 2 章 電流 3 章 電流と磁場 4 章 電磁誘導と電磁波			・電流と直流回路について理解する。 ・磁場について理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴などを理解する。			
2	4 編 原子 1 章 電子と光 2 章 原子と原子核 問題演習			・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものの見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 ・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。			
3	問題演習			・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。			
学習上 の 留意点	・自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習の定着をはかるために、問題集を家庭学習として利用し、配布プリントや定期試験や模試をしっかりと復習する。また大学入試に十分適応できるよう入試問題を取り入れる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文1
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考える。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「新編化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合〔復習と演習〕 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化〔復習と演習〕 第1章 物質質量と化学反応式			・混合物と純物質、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、元素の周期表の理解 ・イオン結合とイオンからなる物質、分子と共有結合、共有結合の結晶、金属結合と金属の理解 ・原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度、化学反応式と物質質量の理解			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応 化学基礎全範囲の演習			・酸・塩基、水の電離と水溶液の pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
3	化学基礎全範囲の演習			・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
学習上の留意点	・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類文 A
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合〔復習と演習〕 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化〔復習と演習〕 第1章 物質と化学反応式			・純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、周期表の理解 ・イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、分子間にはたらく力、高分子化合物、共有結合の結晶、金属結合と金属結晶の理解 ・原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度、化学反応式と物質質量の理解			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応 化学基礎全範囲の演習			・酸・塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
3	化学基礎全範囲の演習			・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
学習上の留意点	・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年 Ⅱ 類 特 文
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合〔復習と演習〕 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			・純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、周期表の理解 ・イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、分子間にはたらく力、高分子化合物、共有結合の結晶、金属結合と金属結晶の理解			
	第2編 物質の変化〔復習と演習〕 第1章 物質と化学反応式			・原子量・分子量・式量、物質の濃度、化学反応式と物質の理解			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応			・酸・塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解			
	化学基礎全範囲の演習			・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
3	化学基礎全範囲の演習			・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。			
学習上の留意点	・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	5 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類理系
到達 目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用 教材	教科書：新編 化学（数研出版） 副教材：2024 セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）、新インプレス化学ノート（浜島書店）						
1	第2編 物質の変化 第4章 電解質水溶液の化学平衡		・水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基、塩、緩衝液の電離平衡について理解する。				
	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ）－典型元素－ 第3章 金属元素（Ⅱ）－遷移元素－		・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。				
	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物		・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。				
2	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 大学入試問題 演習		・高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 ・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。				
3	大学入試問題 演習		・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。				
学習 上の 留意 点	・授業に集中し、積極的かつ能動的な学習態度で臨むこと。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、活用できるようにすること。						

科目の年間授業計画（シラバス）

[illegible]

科目の年間授業計画（シラバス）

[illegible]

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類 文1
到達 目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める 生物学的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う 共通テスト対策問題集を通じて、生物をより深く理解する						
評価 の観 点・ 評価 基準	定期考査の成績を中心に、授業態度、小テストの成績などを加味し、総合的に評価する						
使用 教材	教科書：生物基礎（実教出版） 副教材：共通テスト対策問題集を適宜使用						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	生物基礎 全範囲の演習			・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、 受験に対応できる学力をつける			
2	生物基礎 全範囲の演習			・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、 受験に対応できる学力をつける			
3	生物基礎 全範囲の演習						
学習 上の 留意 点	授業に集中し、積極的な学習態度で臨む 習得度を適宜確認し、共通テストに対応できる学力を身につける						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	Ⅰ年次、Ⅱ年次に学習してきた内容の定着を図りながら、日常生活や社会との関連を意識させる。体のしくみへの関心を高める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 生物基礎 新訂版（実教出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	- 顕微鏡、マイクロメーターの使い方 - 細胞の構造 - 体を構成している物質 - 循環系 - 感覚系			- ミクロな観点から体の構造に関心を持ち、日常生活との関連を学習する - 細胞の構造、細胞小器官などを理解する - 各器官系の構造とはたらきを理解する			
2	- 筋肉系 - 骨格系 - 神経系 - 消化系 - 呼吸系 - 排出系			各器官系の構造とはたらきを理解する			
3	人体の総演習			人体についての理解度を定着させる			
学習上の留意点	- 授業に集中し、積極的な学習態度で臨ませる。 - 授業レポートを頻度高く回収することにより、授業中の意欲を向上させる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 特文
到達 目標	・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 ・演習などを通して、自らの進路を実現できる実力を育成する。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。						
使用 教材	教科書 生物基礎（実教出版） 副教材 新編生物基礎四訂版（啓林館） 共通テスト対策問題集を適宜使用						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	生物基礎 全範囲の演習			・共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける			
2	生物基礎 全範囲の演習			・共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける			
3	生物基礎 全範囲の演習			・共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける			
学習 上の 留意 点	・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・内容を習得しているかを確認し、応用力を身につけること。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類
到達目標	日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、対話の展開、事前の準備、情報量等において支援をほとんど活用しなくても、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。 【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようになる。 【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点等を捉えることができるようになる。 【話すこと(やりとり)】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようになる。 【話すこと(発表)】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を論理的に詳しく話して伝えることができるようになる。 【書くこと】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようになる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】単語や文法事項等の英語の特徴や決まりについて理解し、身につけられているか、また、それらの力を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。 【思考・判断・表現】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ち等を論理性に注意しながら表現したり、伝え合ったりしている状況を定期考査やパフォーマンステスト、Writing課題等で確認し、評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもって学習を進めたり、振り返ったりするといった自ら学習を調整しようとしている姿勢や粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。						
使用教材	『MY WAY English Communication Ⅲ』（三省堂） 『MY WAY English Communication Ⅲ ワークブック スタンダード版』（三省堂） 『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1学期	Unit1 Strategy 1 ～ 8 Unit2 Lesson1・2 Team Teaching			関連したトピックについて理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動(1時間/週)を通じて学んでいく。 ※ALTとの活動時には、活動内容によって「論理・表現Ⅲ」の教科書や教材プリント等を使用することがある。 ・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 ・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
2学期	Unit2 Lesson3 ～ 7 Unit3 Lesson8 Team Teaching			・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 ・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
3学期	Unit3 Lesson9・10 Team Teaching			・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 ・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
学習上の留意点	授業では、教科書の問題やワークブック等を用いて内容を理解したり、文法事項を確認したりする。適宜ペアワークやグループワークを行い、相互理解を深めつつ、コミュニケーション能力を向上させていく。授業の予習として、単語・熟語の意味調べに取り組み、分からないことは調べるという習慣をつける。授業後は、学習した英文を音読したり、文法問題を解き直したりして復習を行う。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	宗 教	科目	一般仏教	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ 年
到達 目標	親鸞の生涯（特に法然との出遇い）と思想（「悪人正機説」等）を学習することで、親鸞の本願他力の思想と深い人間の内面を洞察し、内省の過程を理解する。						
評価 の観点 ・ 評価 の基準	1. 知識の理解・・・親鸞が生きた時代背景、仏教的背景、親鸞が接した人間関係、親鸞が学んだ仏教的思想を理解しているかどうか。 2. 思考・・・親鸞の生き様、親鸞の思考内容（本願他力思想）を学ぶことで、人生の意味（人生観）や人間の価値（人間観）、社会のあり方（社会観）について思考されているかどうか。そして、その教えを日常生活の中でいかに実践して活用していくかを考えさせる。						
使用 教材	『高校生からの仏教入門』釈尊から親鸞聖人へ（本願寺出版社） 『歎異抄』（本願寺出版社）プリントを使用 『さとの知恵を読む』（仏教伝道教会）						
学期	学習内容				学習のねらい		
1 学期	4 月 序 生死出づべき道 1 誕生 ①親鸞聖人の誕生 5 月 1 誕生 ②混乱の時代 2 出家 ①出家の理由 6 月 2 出家 ②得度の時に詠んだ和歌 3 学問修行 ①比叡山での学問修行 7 月 3 学問修行 ②求道の悩み				・親鸞誕生時の時代背景を理解する。 ・仏教で説かれる「無常」を理解する。 ・自力聖道門の修行の厳しさを理解する。 ・修行に励むことで見えてくる心を理解する。		
2 学期	9 月 4 六角堂参籠 5 法然聖人の下へ①法然聖人との出遇い 10月 5 法然聖人の下へ②法然聖人の教え 『歎異抄』第三章の解説（その１） 11月 『歎異抄』第三章の解説（その２） 6 承元の法難 ①念仏弾圧 12月 6 承元の法難 ②非僧非俗				・宗教的値遇の重要性を理解する。 ・「悪人正機説」を理解する。 （法然思想と親鸞思想の理解） ・真実追究の喜びと厳しさを理解する。 ・親鸞が明かす自立的人間像を理解する。		
3 学期	1 月 7 越後での生活 現代と仏教について				・現代における他力思想の重要性を理解する。		
学習上 の 留意点	親鸞の本願他力の思想が、世間一般において「他者依存、甘えの宗教、努力の放棄」などの誤解を受けているので、本時においては、「本願他力」だけではなく、「念仏」・「往生」・「成仏」など、人間を再生する重要な言葉の意味を理解し、親鸞思想を現代において換骨奪胎する必要がある。そして、その教えを身近な日常生活の中で活用し、実践する方向に導くことによって、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守につなげていく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

[illegible]

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第Ⅲ学年
到達 目標	・ 最高学年として自覚し責任ある行動をとれるようにする。 ・ 自己の在り方生き方や進路について考察できるようにする。 ・ 社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。						
評価 の観 点・ 評価 基準	・ 活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・ 活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。						
学期	指 導 内 容 等						
	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事		
1	・ 最高学年としての自覚を持たせ集団生活に適應する能力を育成する。 ・ 学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・ 学年 LHR		クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動		始業式 体育祭 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式		
2	・ 夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・ 自分の適正や進路について考え、将来を展望できるよう指導する。 ・ 学年 LHR		文化祭 生徒会役員改選 ピンクシャツ運動		始業式 避難訓練 文化祭 校外研修 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式		
3	・ 自己の進路の実現に向けて指導する。 ・ 学年 LHR				始業式 進路決定 卒業式		
学習 上の 留意 点	さまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						